

# 松本清張記念館

◆館報◆

2008.8

第28号

開館10周年記念号

**目次**

● トピックス	...	8
● 友の会活動報告	...	7
● みんなの広場	...	7
● 松本清張研究会	...	6
● 企画展紹介「清張の原風景」	...	5
● 記念館10年のあゆみ	...	4
● 十年十色—企画展を振りかえって	...	2



んとい  
十色  
ふりかえって  
館開催企画展



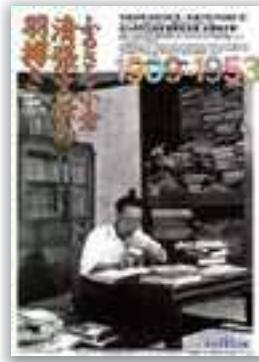
松本清張の旅

2003  
▼

第9回  
平成15年1月18日  
平成15年5月6日  
企画展示室



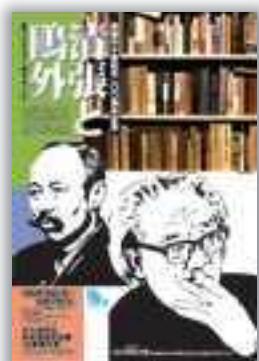
松本清張と風間完  
風間完 插画・原画展



ふるさと小倉  
清張文学の羽搏き



1998  
▼  
第1回  
平成10年12月21日  
平成11年2月28日  
企画展示室



清張と鷗外  
鷗外へのまなざし、響きあうもの

第2回  
平成11年6月19日  
平成11年8月31日  
企画展示室



松本清張と菊池寛

第10回  
平成15年8月4日  
平成15年10月31日  
企画展示室



証言—朝日新聞社  
時代の松本清張

2002  
▼

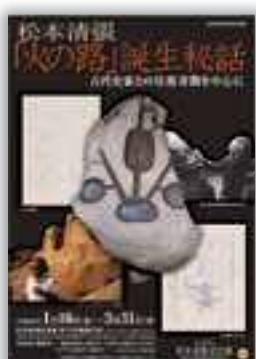
第7回  
平成14年1月12日  
平成14年5月7日  
企画展示室



時間の習俗展  
「和布刈」発、ミステリーの旅

1999  
▼  
第3回  
平成11年12月17日  
平成12年3月31日  
2Fホール

2000



「火の路」誕生秘話  
古代史家との往復書簡を中心に

2004  
▼

第11回  
平成16年1月16日  
平成16年5月5日  
企画展示室



黒い画集・展  
—挑戦、とりどりのタブロー—



清張文学の土壤  
一大正期の小倉

第4回  
平成12年8月1日  
平成12年10月31日  
企画展示室

※企画展は会期を延長している場合があります。

じゅうね  
十年  
—企画展を—  
松本清張記念



2007



松本清張の印刷所時代  
—プロフェッショナルへの道

第17回  
平成19年1月18日  
~  
平成19年5月6日  
企画展示室

第14回  
平成17年8月1日  
~  
平成17年10月31日  
企画展示室

黒地の絵展  
刻まれた記憶



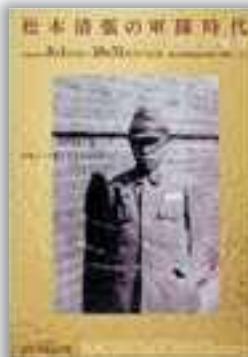
2006

新進作家 松本清張 取材に走る  
—信州上諏訪・富士見行一

第18回  
平成19年8月1日  
~  
平成19年10月31日  
2Fホール

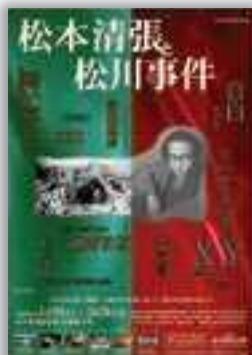
松本清張文学と中近東  
小説に読む考古学

第15回  
平成18年1月21日  
~  
平成18年5月7日  
企画展示室



第12回  
平成16年8月4日  
~  
平成16年11月14日  
2Fホール

松本清張の軍隊時代  
朝鮮の風景



2008



松本清張と松川事件

第19回  
平成20年1月19日  
~  
平成20年5月11日  
企画展示室

「天保図録」挿画展  
風間完が描く江戸のひとびと

第16回  
平成18年8月1日  
~  
平成18年10月31日  
企画展示室



2005

第13回  
平成17年1月15日  
~  
平成17年5月8日  
企画展示室

挿画展  
松本清張作品を彩る単色の世界

来年は、松本清張生誕百年です。  
企画展も更に充実させ記念の年にな  
ればと考えています。

こうして企画展のラインナップを改めて眺めますと、おぼつかない手つきで始めた初頭のものから最近の展示に至るまで、私なりに十年の手ごたえを感じます。「いつも面白いことやっていますね」と各方面から声をかけていただくのも、多面的な作家に挑んだ年月が生んだ結果でしょう。



松本清張記念館  
館長 藤井 康栄

開館十年目を迎えて

# 松本清張記念館 10年のあゆみ

平成20年8月、松本清張記念館は開館10周年を迎えます。

## 平成10年(1998年)

- 8月4日 開館 オープニングパーティ  
開館記念イベント 講演会 井上ひさし「松本清張の仕事」(8月5日)  
名取裕子トーク&シネマ(8月4日)  
シネマコンサート 羽田健太郎(8月9日)
- 12月21日 松本清張研究奨励制度を創設  
第1回企画展「ふるさと小倉 清張文学の羽搏き」スタート(以降、毎年2回開催)  
松本清張生誕90周年記念 風間完講演会



平成10年 開館

平成10年8月4日の開館はメディアでも大きく取り上げられました。地方都市の文学館が全国区で注目を浴び、光栄でもあり、身の引き締まる思いがしたのが昨日のことのようです。

平成10年には研究奨励制度創設と初めての企画展開催、11年には「松本清張研究会」が初の研究発表会を開催しました。こうした清張研究の拠点を目指す「研究センター事業」は、開館当初から続いている。

## 平成11年(1999年)

- 3月 「松本清張記念館 館報」創刊
- 8月4日 開館1周年記念講演(平岡敏夫)  
シンポジウム(山田有策、赤塚正幸、花田俊典、藤井淑禎)  
第1回 研究奨励事業贈呈式(以降、毎年開催)
- 11月27日 松本清張研究会 第1回研究発表会(以降、毎年2回開催)

## 平成12年(2000年)

- 3月 『松本清張研究』創刊号(特集「清張と鷗外」)発行
- 6月17日 北九州松本清張研究会 第1回研究発表
- 7月 第41回建築業協会賞(BCS賞)受賞
- 8月4日 開館2周年記念講演会 小林安司「大正時代の小倉と清張」
- 11月22日 松本清張記念館友の会発足



平成12年 BCS賞 受賞  
設計者の宮本忠長氏(左)と藤井館長(右)

## 平成13年(2001年)

- 1月1日 城内フォトコンテスト開催
- 1月27日 友の会設立記念講演会 新藤兼人「松本清張は何をしたのか」
- 2月16日 文化講演会(山口銀行・友の会協力) 藤井康栄「松本清張の実像」
- 3月 市民文芸講座 開催
- 3月10日 講演会 浅川公生「『点と線』のころの鉄道事情」
- 8月4日 開館3周年記念講演会 森村誠一「松本清張という一大山脈」  
オリジナル映像「火の路へ」に続いて第2弾「点と線」公開

平成12年の『松本清張研究』創刊は、「天声人語」でも言及され、全国から問い合わせがありました。12年7月の建築業協会賞(BCS賞)受賞は、器である建物と、中身である活動内容とをともに評価して頂いたものです。

平成14年は「清張没後10年」。映画祭や俳句大会からクルージングまで、一年を通じて多彩なイベントで盛り上がりました。

## 平成14年(2002年)

- 2月26日 松本清張没後10年記念シンポジウム・講演 中江利忠「清張さんの思い出」  
パネルディスカッション「松本清張と朝日新聞社」
- 8月4日 松本清張没後10年記念講演会  
三好徹「清張文学の魅力」、佐野洋「清張さんの思い出」
- 9月 第1回 読書感想文コンクール実施
- 10月 没後10年記念清張作品映画祭(10月5日・19日)  
講演 堀川弘通「映画『あるサラリーマンの証言』と清張さんの思い出」  
(10月19日)
- 11月15日 没後10年記念清張忌俳句大会 講演 坪内稔典「松本清張と俳句」
- 11月16日 入館者50万人達成



平成14年 没後10年ドラマ紀行  
能登金剛 清張歌碑の前で

## 平成15年(2003年)

1月22日 企画展関連講演・対談 宮田穂栄、岡崎満義「松本清張の旅——編集者としての関わりから」

8月7日 開館5周年記念講演会 夏樹静子「ミステリーのこころ」

9月19日 友の会 前進座朗読劇 第1回「西郷札」



平成17年 オリジナル映像  
「日本の黒い霧——遙かな照射」公開

## 平成16年(2004年)

3月27日 古代史講演 直木孝次郎「飛鳥の石造遺物と齊明天皇・シンポジウム」

8月4日 開館6周年記念講演会  
古川薫「清張文学管見『徒労感の美学』——『相模国愛甲郡中津村』を中心に」

## 平成17年(2005年)

2月12日 講演会 濱野彰親「小説とさしえに就いて」

8月4日 開館7周年記念講演会 佐木隆三「清張文学の最高傑作『黒地の絵』」  
オリジナル映像 第3弾「日本の黒い霧——遙かな照射」公開

平成16年は「砂の器」(TBS)、「黒革の手帖」(テレビ朝日)と、連続ドラマが相次いで放映、新しい若い世代の読者が増えました。さらに19年には「松本清張 点と線」(テレビ朝日)が文化庁芸術大賞を受賞し、小説の発表から50年を経て、改めて話題となりました。15年には古代史研究が初めて研究奨励事業に入選。また、16年には日本・中国・韓国における3点の研究が同時入選し、今後さらなる研究の広がりと国際化が期待されます。

## 平成18年(2006年)

2月25日 講演会 樋口隆康「松本清張と大和の国際化」

8月4日 開館8周年記念講演会 山本一力「生き方雑記帖」

10月28日 講演会 風間正十・大津はつね「風間完を語る アトリエの父・食卓の父」

## 平成19年(2007年)

8月3日 開館9周年記念講演会 筒井康隆「小説とは何か」

↓ 開館以来の10年間で、企画展は19回開催 『松本清張研究』は9冊発行し、現在に至る

## ●開館10周年記念特別企画展

ふるさと小倉シリーズ⑧

# 清張の原風景—遙かな記憶—

期 間：平成20年8月1日(金)～10月31日(金)

場 所：松本清張記念館地下 企画展示室

1909年から1939年までの小倉・下関——特別企画展「清張の原風景—遙かな記憶—」は、「半生の記」や「骨壺の風景」など自伝的作品に散りばめられた当時の街並みを紹介します。

今回は初公開となる清張の尋常高等小学校時代の写真を含め、貴重な写真や絵はがきを多数集めました。



天神島尋常小学校  
清張が通った尋常小学校



魚町商店街(昭和14年)  
小倉の中心的商店街



常盤橋(大正～昭和初期)  
長崎街道の起点となった橋



大阪朝日新聞九州支社(昭和14年)  
清張が勤務していた新聞社



図書館になる前の信行社(大正中期)  
図書館として開設後は清張がよく利用した

### back number 過去のふるさと小倉シリーズ

- ①ふるさと小倉 清張文学の羽搏き
- ②清張と鷗外 鷗外へのまなざし、響きあうもの
- ③時間の習俗展 「和布刈」発、ミステリーの旅
- ④清張文学の土壤——大正期の小倉
- ⑤証言——朝日新聞社時代の松本清張
- ⑥黒地の絵展——刻まれた記憶
- ⑦松本清張の印刷所時代  
——プロフェッショナルへの道

# 松本清張研究会 第18回 研究発表会

日時：平成20年6月14日（土）午後2時～  
会場：お茶の水女子大学

○32歳10ヶ月という非常に短い生涯だが、その間に、森本さんはたした役割は非常に大きく、多くの人が敬服していた。「断碑」での森本さんなり東京考古

員で、森本さんからの原稿依頼に応えて機関誌『考古学』に論文を書いている。

森本六爾の人と学問、そして「断碑」

「断碑」（原題「風雪断碑」）は昭和29年12月、「別冊文藝春秋」に発表された。在野の考古学者、森本六爾をモデルにした小説である。この作品で「自分の道を発見した」と松本清張は述べている。作中、彼が亡くなつたときに「Sが電報を各方面に打つた。誰も来るのはなかつた」という文章があり、主人公の孤立と孤独を二行で表現している。しかし実際は、同志たちがあちこちから来た。これを清張は来なかつたことにしている。春成秀爾氏はモデルの森本六爾の実像と、松本清張が「断碑」を創作するにあたって、それをどのように変形していけるかを具体的に示された。



月、「断碑」（原題「風雪断碑」）は昭和29年12月、「別冊文藝春秋」に発表された。在野の考古学者、森本六爾をモデルにした小説である。この作品で「自分の道を発見した」と松本清張は述べている。作中、彼が亡くなつたときに「Sが電報を各方面に打つた。誰も来るのはなかつた」という文章があり、主人公の孤立と孤独を二行で表現している。しかし実際は、同志たちがあちこちから来た。これを清張は来なかつたことにしている。春成秀爾氏はモデルの森本六爾の実像と、松本清張が「断碑」を創作するにあたって、それをどのように変形していけるかを具体的に示された。

森本六爾の人と学問、そして「断碑」

「断碑」（原題「風雪断碑」）は昭和29年12月、「別冊文藝春秋」に発表された。在野の考古学者、森本六爾をモデルにした小説である。この作品で「自分の道を発見した」と松本清張は述べている。作中、彼が亡くなつたときに「Sが電報を各方面に打つた。誰も来るのはなかつた」という文章があり、主人公の孤立と孤独を二行で表現している。しかし実際は、同志たちがあちこちから来た。これを清張は来なかつたことにしている。春成秀爾氏はモデルの森本六爾の実像と、松本清張が「断碑」を創作するにあたって、それをどのように変形していけるかを具体的に示された。



## 講演 「松本清張『断碑』と森本六爾 ——モデル小説の功罪」

講師  
**春成 秀爾 氏**

国立歴史民俗博物館名誉教授

学会の評価と、実際は相当違うというのが私の印象である。「断碑」の中で森本さんの打倒の敵とされている梅原末治さんも後藤守一さんも、東京考古学会の会員で、森本さんからの原稿依頼に応えて機関誌『考古学』に論文を書いている。

○「卓治はフランスに留学したが、病を謀で意味がなかつたか、強調している。

しかし、病床にあって、森本さんは日本の学界の将来、東京考古学会の今後のあり方を一生懸命考えた。そこから出てきたのが、『考古学』の月刊化と『考古学年報』の刊行であり、のちに三角縁神獸鏡の研究で有名になった小林行雄さんと一緒に作った『弥生式土器聚成図録』であつた。そういう意味で、パリでの一年間の成果は十分にあつたと思う。

○「伝記がなかつたので、森本さんを知っている人に会つていくしかなかつた」と、清張さんは取材源を述べている。

6

は惜しまれたのである。

○「断碑」に「木村卓治はこの世に三枚の写真を残した」とある。「鎌倉の大仏を背景にした」写真。森本さんをわざわざ見舞いに来た京都大学総長の濱田耕作さんと一緒に写っている。「ステッキを斜に構えて、昂然といった恰好」とあるが、

写真の森本さんはステッキは持っていない。また、「卓治は眼を据え、口をへの字に曲げて」とあるが、時期的にもう彼自身は死を覚悟しており、むしろ弱々しい姿である。

次は、パリの地下鉄の入口でとった写真。「断碑」では「これはひどく弱々しい微笑をしている」とある。しかし、森本さんは微笑はしていない。清張さんは、自分の作品の主人公像を作つていくための材料として写真を利用しただけであつて、正確な解釈とは違う。

○「考古学」の「編集所日記」。松本清張さんはこれを使つてゐる。読むと、森本さんの敵のはずの官学アカデミーの人たちが、病氣見舞いの品を送つてゐる。それから、森本ミツギさんの最後の「日記」。「断碑」の中では、ミツギさんは奈良の三輪山の麓の家に完全に隔離され、夫の六爾さんにも、子どもにも会うことも許されないと、悲劇的な最後を書いてゐる。しかし、実際は二人は同居しており、森本さんの父母とも二人を心配して、お見舞いはするし、子どもを連れて行く。「断碑」ではそういうところを皆、意図的に落としてい

ての松本清張の心の動きが見えてきて非常に面白い。オリジナルと比べて、それをどうデフォルメしているか、そしてどういう作品に作り上げていくか、その秘密がここに挙げたようなところにも隠されているよう思う、と春成氏は述べられた。

### モデル小説の問題

○清張さんは「この不遇な才能ある考古学者を調べるためにこれまで一番多くの人に会つている」と書いている。しかし、

一番の同志で親しかつた小林行雄さんと坪井良平さんの二人に清張さんは会つてない。なぜだろうか。藤森栄一さんか

ら取材したあと、会うこと避けてしまつたのではないか。二人は、森本さん

を擁護し、本当の姿を述べるだろう。す

ると、松本さんがすでに頭の中で作り上げてゐる主人公像が壊れていく可能性がある。伝記でなく小説なのだから、もう

これでよいと判断したのではないか。

生きている人に会つていくしかなかつた」と、清張さんは取材源を述べている。

しかし、昭和11年に森本さんが亡くなつた後、実にたくさんの追悼文が書かれてゐる。追悼文と『考古学』に目を通せば、少なくとも森本さんは生きている人に会つてゐる。追悼文と『考古学』に目を通せば、ことは書けますよ、と私には思える。森本さんは生涯字界ではまったく認められなかつたと清張さんは強調するが、大家にも中堅にもちろん認められ、彼の死

研究者の側からすると、追究するのはあくまでも歴史上の事実、その先に見える眞実の姿である。証拠を揃え、客観的な判断を下すために、自分なら小林、坪井の両氏に話を聞きに行つただろう。ここに、モデル小説と創作（フィクション）の問題、小説と伝記の違いを考える視点がある、と論じられた。

### 研究発表

#### 「松本清張 歴史小説の取材源

—新井白石『藩翰譜』と飯田忠彦『野史』—

発表者 森本 積氏 元賢明女子学院短期大学教授

# みんなの広場

今回は、最近お寄せいただいたアンケートの中から、記念館を訪れてみての感想を掲載しました。

・建物がとてもよく出来ていて清掃も行き届いている。展示内容も工夫されていて、これ以上ない程素晴らしい。

(70代 秋田 男)

・小学生の子どもと来ました。彼女が清張氏の本を読み終えた時もう一度来たいです。

(30代 県外 女)

・時間をかけてもう一度ゆっくりとたどりたい。次回訪れた時もう一度感想を言わせて下さい。記念館が出来ただけでも素晴らしい嬉しいと思います。

(60代 フランス 女)

・私は18才の頃、神戸に転職して初めて本を読んだのが『黄色い風土』でした。それからというもの全て読みふけっています。それが進むにつれて清張さんの生い立ちが知りたくなり、自分で読んだ本が記念館にあると自然に嬉しさがこみあげ何回でも来たい気持ちになります。

(60代 熊本 男)

・一度来たい!と思って7、8年かかってしまいました。とても楽しみにしていました。感激です。清張さんの部屋を見た時は泣けました。まだまだ読んでない本がたくさんあるのでどんどん読みたいです。

(40代 静岡 女)

・記念館の雰囲気が好きで思い立てば寄っています。いつもありがとうございます。1年振りに来ましたがその時々で自分が見ているものが違うので自分の変化に気づかせられるし、読んでみたいものもその時々で変わっているので自分の成長にも気付かせてもらいます。

(40代 市内 女)

このコーナーでは、アンケートなどでお寄せいただいた意見を紹介しております。

清張や作品に対する思い、エピソードなど何でも結構です。

皆さんの「声」を是非、記念館までお寄せください。

※アンケートは館内にも置いてあります。

## 友の会活動報告

皆様のご理解・ご協力のもと平成19年度事業も全て無事に終了する事ができました。さあ！いよいよ生誕100年です。いつもバックアップしてくれる記念館への恩返しに記念事業成功のため友の会も全力で頑張ります！！  
みなさまよろしくお願いします。

### ●年次総会 8月3日(金)

総会終了後の懇親会では、遠方からの会員さんとの交流で盛り上りました。

### ●他都市文学館見学会 11月2日(金)～3日(土)

今回は他都市の見学会と文学散歩もかね、津和野・山口方面へ。参加者は少なかったですが、綺麗な景色と美味しいお土産のおかげで(笑)

大満足の見学会になった  
ようです。



津和野・森鷗外記念館にて

### ●清張サロン

第1回 11月28日(水)『点と線』講師：安間隆次先生

第2回 3月27日(木)『ゼロの焦点』講師：赤塚正幸先生

講義と参加者の活発な意見交換で毎回あっという間の2時間です！

### ●生誕祭 12月15日(土)

福岡・筑紫女学園大学で行われた松本清張研究会への参加と九州国立博物館の見学を行いました。

### ●朗読劇

4月12日(土)『ゼロの焦点』

4月13日(日)『或る「小倉日記」伝』

毎年大好評！一番人気の事業です。今年で5回目となった劇団前進座による素晴らしい公演です。

## 友の会会員 募集!!

ただいま友の会では新規会員を募集中です。松本清張記念館友の会では清張ゆかりの地の見学や読書会・講演会等の開催、会報の発行など多彩な事業を展開しています。

会費は、8月から翌年7月までの1年間で3,000円となっております。

### ■友の会事業

- ・講演会、シンポジウム等の開催
- ・映画ビデオ等の上映会の開催
- ・読書会、文芸講座等の開催
- ・会報の発行
- ・松本清張ゆかりの地、他都市の文学館見学事業の実施
- など

### ■会員特典

- ・常設展の招待券(年間4枚)進呈
- ・企画展(年2回)のご招待
- ・記念館主催事業のご案内・参加
- ・記念館広報誌(館報)・企画展図録進呈

- ・友の会主催事業のご案内、会報の進呈
- ・友の会オリジナルグッズの進呈(加入年度のみ)
- ・喫茶「石の館」(記念館内)の飲食料金1割引

友の会入会のお申し込みは… TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

平成20年度 中学生・高校生

# 読書感想文 コンクール



昨年に引き続き、清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたい

という願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神が伝えられていけば幸いです。

■応募対象 全国の中学生高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「或る『小倉日記』伝」(文春文庫「宮部みゆき責任編集 松本清張傑作短篇コレクション 上」)、新潮文庫「或る『小倉日記』伝」、カッパ・ノベルス「西郷札」)

「点と線」(新潮文庫「点と線」、カッパ・ノベルス「点と線」)

「左の腕」(文春文庫「無宿人別帳」、新潮文庫「佐渡流人行」、カッパ・ノベルス「遠くからの声」)

■応募方法

○中学生、高校生ともに1200~2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるように応募用紙に一行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしませんので、必要なかたはコピーをおとりください。

■応募締切 平成20年10月31日(金)必着

■応募先 ☎803-0813 福岡県北九州市小倉北区城内2-3

松本清張記念館 感想文コンクール係

\*応募用紙は記念館公式HPからダウンロードできます。

■選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発表

審査結果は、12月下旬頃、本人と学校に通知します。

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、表彰式を行います。

なお、入選の結果や受賞作品を記念館刊行物等に掲載することができます。

その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1人)《モンブラン》万年筆「マイスター・シュテュックNo.149」

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人) 文具(未定)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人) 記念館グッズと図書券

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。

最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は<「特別賞」として「館報」掲載を予定しています。

●主催 北九州市教育委員会

●主管 北九州市立松本清張記念館



編集・発行

## 松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

2009年

- 開館時間 午前9:30~午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日~12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)  
小学生/200円(160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
小倉駅からは100円バスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)  
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

松本清張記念館

第10回

## 松本清張研究奨励事業 入選企画決定

平成10年度に創設した「松本清張研究奨励事業」もちょうど10回目を迎えた。今回は、松本清張の幅広い活動に対して、文学研究、古代史研究、人物研究など多彩な研究企画案の応募が、国内外から12点ありました。

選考委員会による厳正なる審査の結果、次のとおり入選者が決まりました。

企画名 動機と時空という視座からみた清張推理小説の社会性

入選者 和田 梶三(立命館大学非常勤講師)

奨励金 40万円

企画名 清張文学と旅—作品の舞台と人の研究—

入選者 大川 力(共同研究代表・松本清張研究会会員)

奨励金 30万円

## 第11回 松本清張研究奨励事業募集

\*詳しくは記念館までお問い合わせください。

## 研究誌『松本清張研究』

第9号絶賛発売中!!

創刊号 2000 特集 清張と鷗外

第2号 2001 特集 松本清張と菊池寛

第3号 2002 特集 清張文学と旅

第4号 2003 特集 清張ミステリーの〈現在〉

第5号 2004 特集 松本清張の敗戦前後

第6号 2005 特集 清張古代史の軌跡と現在

第7号 2006 特集 歴史・時代小説の醍醐味

第8号 2007 特集 清張とメディア—時代との遭遇

第9号 2008 特集 世界への視座—清張の海外取材



### ●編集後記●

今号は松本清張記念館開館10周年記念特別号としてお届けしました。今後も一歩ずつ着実に実績を積み上げていきたいと思います。引き続き皆様のご協力ををお願いいたします。(碇 政幸)

